

ハーモニー

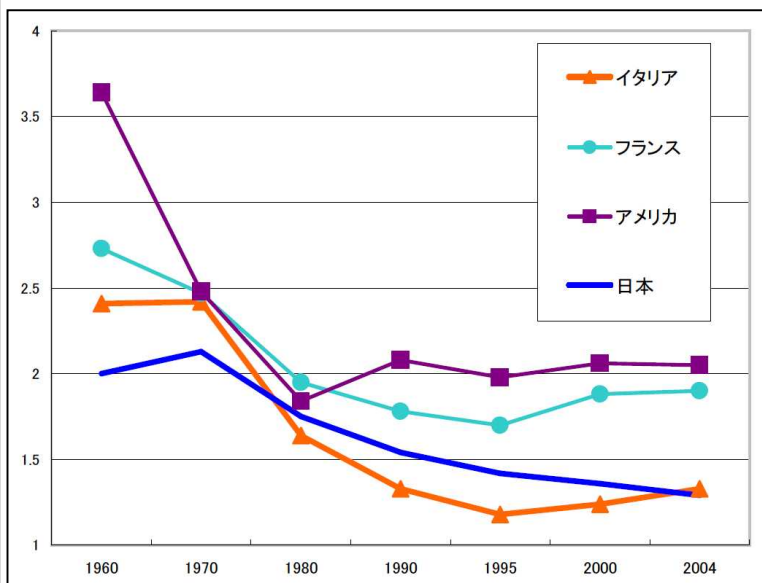


(第6号)

発行：下田市役所企画財政課 編集協力：男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会
電話 22-2212 FAX22-3910 メール kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp

『少子化・子育て特集』 = 少子化・子育て環境の国際比較 =

ほとんどの先進国で少子化が進行



1960年から1995年の動きを見ると、ほとんどの先進国で出生率が低下しており、少子化が進行しています。

1995年以降では、出生率が上昇に転ずる国や水準を維持する国がでていますが、日本では低下傾向が続いています。全体的に見れば、人口置き換え水準（人口が維持される水準）の2.08を下回っており、ほとんどの先進国で少子化社会となっていますが、少子化対策への取組により、国によって差が出ています。

日本では、歯止めのかからない「少子化」に対応するため、国をあげてその対策が検討されています。出生率が回復している国の事例を参考にしつつ、私たちにあった少子化対策の推進が求められます。

「少子化」は、単に法律や制度を変えただけでは解消しないでしょう。やはり、個人個人の意識改革や家族や地域、社会が一体となった子育て支援の取り組みが不可欠だといえます。

今回のハーモニーでは、子育て・少子化の特集として、子育てを取り巻く環境の国際的な違いについて考えてみるために、外国から下田に転入し、暮らしている方に、それぞれの国の子育て環境について取材をさせていただきました。あらためて私たちの子育て環境について考えてみましょう。

ハーモニーに関するご意見やご感想、掲載内容に関するご要望をお待ちしております。

◎下田市役所企画財政課

〒415-8501 下田市東本郷1丁目5番18号

FAX：0558-22-3910 メール：kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp

シェリー さん（カナダ）

カナダ出身の Shelley（シェリー）さん、けいたさん、6 才（男）、4 才（女）、2 才（男）の 5 人家族です。

シェリーさんは英会話スクールと河津町の ALT、けいたさんは自営業（焼肉店）と、お二人とも仕事を持っています。

10 年前に来日、下田に来て英会話スクールに勤務、7 年前にご結婚、下田で家族を持たれたということです。



シェリーさんは、23 才からいろいろな国（50 カ国以上！）を回ってきたので、日本で「生活習慣の違い」に大きなとまどいはなかったそうです。

「カナダの子育て事情」を聞きたかったのですが、彼女自身がカナダにいたときに「子育て」に関して注意深く見てきたわけではないので、ご自身の経験やカナダにいる姉妹の方の経験ということでお話しをしていただきました。

「カナダは、法律で 10 才以下の子どもを 1 人で家に置いてはいけないと決められているので、多くの家庭でベビーシッター（近所のお姉さん、お兄さんのアルバイト）を利用しています。」



「子育てへの夫婦の関わり方は、その時に出来る方がやるということではありますが、やはり女性に大きな負担がかかってしまうのは、日本もカナダも同じだと思います。」



「教育に関しては、日本同様お金がかかります。少子化が進んでいるというのはカナダも同じで、子育てにかかる経済的な負担の大きさは子どもを持つことでの共通の問題点だと思います。」

「日本の保育園、小学校は、とても素晴らしいと思います。先生方も熱心ですし、質が高いと感じます。安心して子どもを預けることができます。」

「しつけに関して、日本では『ゲンコツもしょうがない』という考えもありますが、その点はどうしても納得できません。しっかりと話し合うことが大切だと思います。」



「家の中では、意識的に英語を使っています。生活の中で日本語は身に付きますが、家族や親戚に会ったときにコミュニケーションを取れるように、英語を身に付けさせたいと思っています。」



「どうしても、自分の仕事を子どもたちに受け継いでもらえればという考え方があるようですが、それはあくまでも子どもたち自身が考え、決めていく問題だと思います。」

違った文化で育ったお二人ですが、お互いのことや仕事を尊重しながら、お二人でしっかりと話し合い協力しあって子育てをしているということがインタビューの中で感じられました。

フィリップ ベルゴンゾ さん（フランス）

笑顔の優しいベルゴンゾさんは、下田市内にある美術館学芸員の奥様と3歳のお嬢さんの3人家族。ご本人もアートディレクターとして忙しくフランスと日本を行き来されているとのこと。

「日本が好きで、フランスでも日本語を勉強していました。」と言われるように、とても流暢な日本語を話されるので、とてもびっくりしました。

新緑のまぶしいご自宅でフランスでの子育て環境についてご夫婦からお話を伺いました。



「出産においていわゆる里帰りや祖父母の援助を基本的には望みません。出産は夫婦にとって大きな出来事です。この大切な時期を夫婦で過ごすことが当たり前です。」

「子どもは「川の字」で寝ることはなく小さな時から一人で寝かせます。そして、18～19歳になると子どもは親元を離れて生活をします。週末や長期休暇の時には行き来をしますが、普段はすべて自分のことは自分でやります。早くから子どもの自立を前提に子育てをしています。」

「子育て中の夫婦も、夫婦や大人同士の時間を大切にします。ベビーシッターに預け、音楽会や演劇鑑賞などにもよく出かけます。友人との食事会でも、子どもは別の食卓で、大人はゆっくりと食事や会話を楽しめます。」



「育児・家事への夫の関わりはごく自然に行なわれています。夫が休みの時には料理も作りますし、子どもにミルクを飲ませることも当たり前です。育児・家事・掃除など、お互いができることを自然に役割分担しています。」

「フランスの子育て支援制度は素晴らしく、経済的な負担はありません。3人目の子どもから育児手当が非常に高くなります。今フランスは数少ない出生率の上昇している国です。大変手厚い支援制度がありますが、その反面、税金は非常に高く、日本でいう消費税も19%を超えています。」

「保育園、小中高校、大学などの授業料は無償です。出産費用も無料です。働く女性と男性の賃金はほとんど同じですし、育児休業を取得する男性も日本よりずっと多いでしょう。」

「1968年の五月革命以降、フランスは男女の社会的な地位が平等になりました。男女共同参画という意味では地についてきていますね。」



Q：日本の少子化が進んでいる原因は、どう考えますか？

「いろいろな理由があると思いますが、今の若い世代の親は、いわゆるバブルの時代を作り、乗り越え、仕事人間として生きてきたので、そんな親の姿を見ながら、反対に自分の生き方や人生を大切にしたいと考えているのではないのでしょうか。ですから、子どもを産むことよりは自分の人生を優先させたり。もちろん子育てにお金がかかることも子どもを産まない理由にあるでしょう。」

「日本の文化は素晴らしいところがいっぱいあります。日本人は、親の面倒を見たり、親子の交流を大切にしたり、家族を大切にします。フランスでは高齢になると施設に入るのが普通ですから。」

ニックス デイビッド ジョン さん（アメリカ）

アイルランド生まれのアメリカ人ニックスさんは、日本人の奥様との間に、5歳と3歳になる双子のお嬢さん3人の子育てに奮闘中。

下田に住んでまだ3年ですが、以前東京や大阪に住んでいたとのことで日本語はかなりお上手。

双子のお嬢さんは今年から保育園に入り、先日が入園式だったそうです。

海を見下ろす高台のご自宅で、アメリカなどの子育て環境を伺いました。



「アメリカは教育や子育てにはとてもお金がかかります。子どもにいい教育環境や住宅環境を選ぶことは、お金があればいくらでもできます。よい学校を選ぶために学区を超えた引越しなどもよく行なわれます。もちろん住宅費もかかります。ただ、子育てにかかる経費は税金で控除されます。」



「出産の費用は高額です。入院期間は24時間でも100万円もかかります。なかなか簡単に子どもを産める環境ではないですね。アメリカには里帰り出産はないです。やはり夫婦での子育てが基本です。」

「児童手当はアイルランドにはありましたが、アメリカはありません。アメリカはいろんな意味で自由も多いですが、何事にも良いものを求めると経済的な問題が関わってきます。」



「アメリカでは、法律で子どもを一人で家に置いてはいけないことになっています。ですから、日常的にベビーシッターを頼みます。放課後やちょっとした外出の時には、近所の高校生や大学生がアルバイトとして家に来て子どもを見てくれます。」

「日本で驚いたことは、車に乗るときでした。アメリカでは、どんなに短い距離でも必ずチャイルドシートやシートベルトを使用しなければなりません。日本とは意識が全然違います。」

「育児や家事は夫婦で自然に分担しています。（実は日本人と結婚したら楽になれるかと思っていました。（ニックスさん：笑））」



「お互いのことは必ず名前呼び合います。日本のように「おとうさん、おかあさん」ということはありません。（日本のように「おとうさん」と呼んだら、「私はあなたのおとうさんではない」と言われました。（奥様：笑））」

「場所柄、近所に子どもさんのいる家が少ないのですが、近くの海に遊びに行くとおなじような家族に会えます。そこでお友達もたくさんできました。日本の人は仲良くなりやすく、またとても親しくつきあっていただけるので、頼もしく、またとてもうれしいです。」

今回取材をさせていただきました皆様、お忙しい中インタビューにご協力をいただき、誠にありがとうございました。

※男女共同参画情報紙「ハーモニー」は、下田市役所ホームページでもご覧いただけます。

アドレス <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/> 下田市役所（Top→行政→男女共同参画）